

研究主題 「持続可能な社会の担い手を育成するためのカリキュラム開発

－『深い学び』を通して－

東京都教職員研修センター企画部企画課
稲城市立稲城第二小学校 主幹教諭 鈴木 千津

第1 研究のねらい

現代はグローバル化や情報化など、社会の進展の中で発生する様々な問題が複雑に絡み合い、未来を予測することが困難な時代に突入したと言われている。そのような中、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(文部科学省 平成28年12月21日)(以下「中教審答申」)では、「自然環境の有限性等を理解し、持続可能な社会づくりを実現していくことは、我が国や各地域が直面する課題」であり、「子供たち一人一人が、地域の将来などを自らの課題として捉え、そうした課題の解決に向け自分たちができることを考え、多様な人々と協働し実践できる」必要性が述べられた。様々な立場や意見をもった人々と検討し合う中で、見方・考え方を広げていくといった「深い学び」を通して、新しい価値や考え方を創りだし自己実現していく資質・能力を身に付け、将来「持続可能な社会の担い手」となっていくよう、社会との関わりの中で豊かな学びを実現していく必要があると考える。

そこで、本研究では、「深い学び」を通し「持続可能な社会の担い手」を育成することを目指すため、既存の単元計画や学習活動をどのような視点で改善していけばよいのかを明らかにし、多くの学校で活用できるカリキュラム開発を行うことをねらいとした。

第2 研究仮説

「持続可能な社会の担い手」を育成するために、指導の実態と課題、効果的な題材や指導の在り方を明らかにし、それらカリキュラムに反映していけば、児童は実社会を見つめ、持続可能な社会の実現に向けて、自ら考え行動しようとするであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

第一に「中教審答申」を受け、児童・生徒の学びの改善・充実に向けた本研究との関連を図にまとめ示した(図1)。

第二に、「持続可能な社会の担い手」として必要とされる資質・能力の単元計画への位置付けと「深い学び」の具体的な姿を明確にした。

- 「持続可能な社会の担い手」として必要とされる資質・能力として、「E S Dの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み(平成24年 国立教育政策研究所)」に示された例(六つの構成概念と七つの能力・態度)を本研究では取り上げ、単元作成における位置付け及び新学習指導要領の方向性との関連をまとめた。
- 「深い学び」は、以下のとおり捉えることとした。

「深い学び」とは、児童が主体的な学びと対話的な学びを土台とし、実社会・実生活に即した学習課題について探究的に学ぶ中で、個々の知識を概念化し、次の問題発見・解決につなげていく過程であり、自分や他者の思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程である。

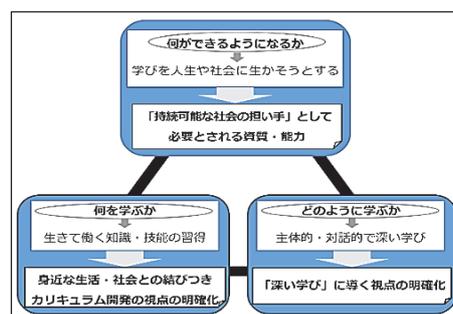


図1 中教審答申と本研究の関連

2 調査研究

(1) 調査の目的

平成 28 年 8 月～9 月、既に「持続可能な社会の担い手」を育成する教育に取り組んでいる稲城市内公立小学校 12 校を対象に、持続可能な開発のための教育や主体的・対話的で深い学び、総合的な学習の時間等に関する実態及び実践事例について質問紙法により調査した。

(2) 調査の概要

表 1 調査の概要一覧

調査名	対象	内容	調査結果・特徴的な傾向
新しい教育課題に関する調査	管理職 13 名	- ESD を取り入れた授業の取組状況 - 主体的・対話的で深い学びに関する実態調査	・方針の明確化、組織化・連携、研修計画等が特に重要と考えている。 ・ ESD や「深い学び」に関する研修や指導力向上の必要性を感じている。 ・地域学習は、ESD の理念を取り入れ実践力を育むのに効果がある。 ・地域の特徴を生かした題材は、ESD を推進するために効果がある。
新しい教育課題に関する調査	教員 120 名	- ESD を取り入れた授業の取組状況 - 主体的・対話的で深い学びに関する実態調査	・ ESD の理念を取り入れた授業は、主に総合的な学習の時間で実施されている。 ・地域を題材にした探究学習が多く実践されている。 ・主体的な学び・対話的な学びに比べ、「深い学び」の取組に難しさを感じている。 ・ ESD や「深い学び」に導く具体的な指導の仕方や工夫が知りたい。
総合的な学習の時間に関する調査	児童 612 名	- 総合的な学習の時間の取組状況と意識調査	・学びを社会へ発信する学習活動が不足している傾向にある。 ・地域行事やボランティアの参加率は低い傾向にある。 ・自分の行動や発言が、社会を動かす力があるという認識は低い傾向にある。

(3) 調査結果から明らかになった、カリキュラム開発研究の方向性と課題

以上の調査結果から、「持続可能な社会の担い手」を育成するために、児童・生徒にとって身近な社会である地域が題材として取り上げられ、特に総合的な学習の時間で多くの実践が行われていることが分かった。しかし、既に取組を進めている学校においても、「持続可能な社会の担い手」や「深い学び」について、その捉えにくさから具体的にどのように授業に反映させればよいか分からないという実態も明らかとなった。

3 開発研究

上記の調査結果から浮かび上がった児童や教員、管理職の実態を踏まえ、教員や管理職が求めている「持続可能な社会の担い手」を育成する視点を取り入れた単元計画の作り方や、「深い学び」を授業改善の視点として設定し、以下の三点を本開発研究の柱とした。

(1) 「単元計画を見直す七つの視点」と単元計画の見直しモデル

調査研究で「持続可能な社会の担い手」を育成する実践として展開された単元例を分類・整理し、共通する七つの特徴を取り上げた。この七つを「単元計画を見直す七つの視点」とし既存の単元計画を見直す過程を示すと図 2 のようになった。

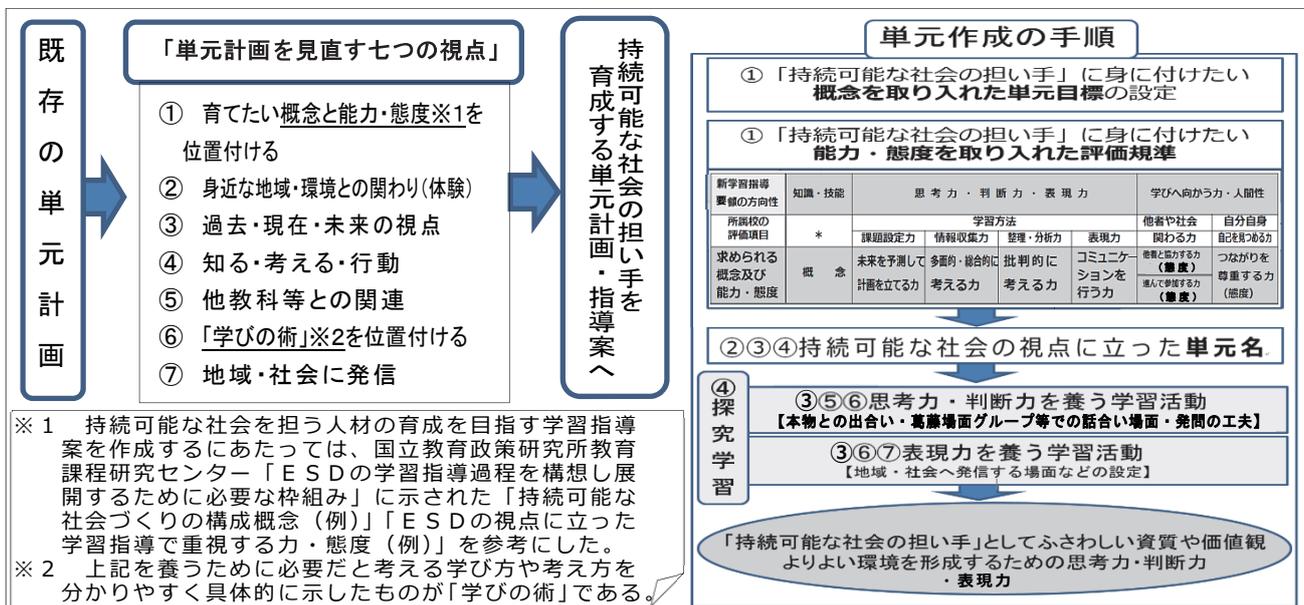


図 2 「単元計画を見直す七つの視点」と単元計画の見直しモデル

(2) 「学習活動を見直す四つの視点」と学習活動の見直しモデル

調査研究で「深い学び」の過程が展開された事例を分類・整理し、共通する四つの特徴を取り上げた。この四つを「学習活動を見直す四つの視点」とし、既存の学習活動を改善することで「深い学び」を実現し、育成すべき資質・能力の育成を図ることができると考えた。④振り返りで、「深い学び」の土台となる「学びに向かう力」を育成するため図4の七つの具体的な活動の姿として項目を設定し、振り返りカードで繰り返し自己評価させ定着を図っていく。



図3 「学習活動を見直す四つの視点」と学習活動の見直しのモデル

図4「学びに向かう力」項目

(3) 手引の作成

「持続可能な社会の担い手」を育成する単元計画と「深い学び」を実現し、児童の資質・能力を伸長する資料を、手引として二種類作成した。

教師用は、「持続可能な社会の担い手」の育成や「深い学び」の捉え方から具体的な授業づくりの工夫まで、授業実践に生かせる内容を幅広く記載した。児童用は、「学びの術」として小学校の6年間で身に付けておきたい学びに向かう力のチェック表から、考え方や話し合いの仕方、表現の仕方までを児童自身が日常的に活用できるよう作成した。

教師編	児童編
<ol style="list-style-type: none"> これから求められる教育 持続可能な社会を担う人材と深い学び 学びに向かう力 単元計画を見直す七つの視点 学習活動を見直す四つの視点 学びの術はどう使うの？ 具体的な事例を教えて！ ホールスクールって何？ 関係用語集 10都内ユネスコスクール一覧 	<ol style="list-style-type: none"> 学びの術って何？ 自分を点検してみよう！ 考える術(思考ツール) <ul style="list-style-type: none"> A 考えを生み出すための術 B 考えを整理するための術 C 考えをつなげるための術 D 新しいアイデアを作るための術 E アイデアを選ぶための術 意見をつなぐ術(話し合いのコツ) <ul style="list-style-type: none"> ① 机の向きを工夫しよう ② 司会の仕方を身に付けよう ③ 意見を書き留めよう 5 意見をまとめ伝える術

図5 手引の目次

図5 手引の目次

4 検証授業

(1) 検証授業の概要 対象：都内公立小学校 第6学年

単元：坂浜里山プロジェクト～今を見つめ、未来のためにできること～(22時間扱い)

所属校第6学年の既存の単元計画及び学習活動が、「持続可能な社会の担い手」を育成する視点を踏まえた、「深い学び」を通じた探究活動が展開できるカリキュラムとなるよう、「単元計画を見直す七つの視点」、「学習活動を見直す四つの視点」で見直しを行った。検証授業は、全22時間の単元学習のうち、「知る～考える～行動する」の三つの学習過程にまたがる8時間を抽出し実施した。

ア 「単元計画を見直す七つの視点」と見直しモデルの検証

表2 「単元計画を見直す七つの視点」を取り入れた単元計画の概要

②③④ 単元名	坂浜里山プロジェクト -今を見つめ、未来のためにできること-					⑤ 他教科へ	
① 単元目標	地域の方の思いを受け、10年後の未来の社会を描き、そのために、今自分は何ができるかを考えることを通して、持続可能な社会を構築する責任があることに気づき、行動しようとしている。					*表2の①～⑦は、(4)ー②「単元を見直す七つの視点」を示す。	
④ 学習過程	知る	考える		行動する			
主な学習活動	地域の開発を知ろう	未来に伝えたい価値を考えよう	そのためのプロジェクトを考えよう	プロジェクトを実施しよう	⑦ 地域の方へ発信 意見交換会		⑤ 【国語】地域の未来 意見文・詩の創作
③ 過去・現在・未来の視点	過去・現在	過去・現在・未来	過去・現在・未来	現在・未来	現在・未来		過去・現在・未来
⑥ 学びの術	カード分類 インタビュー グラフ作成	カード分類 十字座標	カード分類 十字座標 計画表	依頼文 アンケート	プレゼンテーション		意見文 お礼状

イ 「学習活動を見直す四つの視点」と学習活動の見直しモデルの検証



図6 「学習活動を見直す四つの視点」を取り入れた学習活動の概要

(2) 検証授業の分析

ア 自己評価（学びに向かう力）の分析

「学びに向かう力」の七項目の自己評価の平均値を比較した。発問や学びの術など指導の手だてが最も効果的に設定された四回目では、一回目で他の項目に比べ相対的に低かった二項目を始め多くの項目で評価が向上した。このことから、学級全体として学びに向かう力が向上したと推測される（図7）。

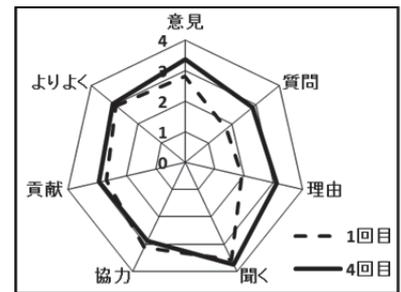


図7 自己評価の推移（4段階）

イ 自己評価（深い学び）の分析

アの結果に加え、四回目の実践については振り返りカードの自由記述に、(4)－①に示した「深い学び」の過程が表れているかどうか分析も行った（図8）。この実践は未来の地域につなげたい価値を話し合った実践である。多様な考えに気付く等考えを広めた児童（23%）と、よりよい価値を創りだそうとする等、考えを深めた児童（71%）を合わせると、ほぼ全員の児童に思考の広がりや深まりが見られたと推察される。

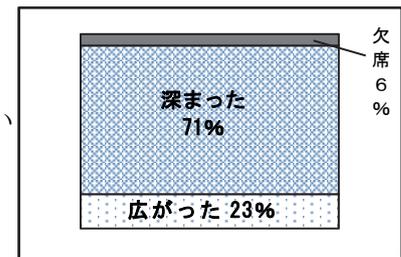


図8 振り返り「深い学び」の分析

ウ 意識調査の分析（地域社会に関する意識）

児童の地域社会に関する意識や活動の実態から、肯定的評価が低かった五つの項目について追跡調査を行った（図9）。

いずれも20%以上の伸びが見られ、児童の地域社会に対する関心や意識、関わろうとする活動意欲が向上したと推測される。

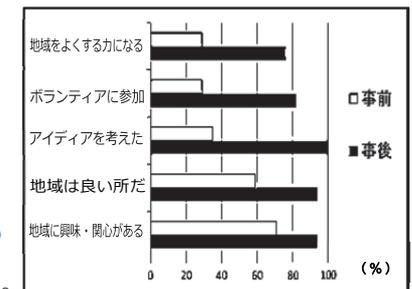


図9 質問紙調査の推移（肯定的に答えた児童の割合）

第4 研究の成果

「持続可能な社会の担い手」を育成するための単元学習や学習活動の改善の方法を手引にまとめることができた。「単元計画を見直す七つの視点」と「学習活動を見直す四つの視点」で改善していけば、児童は地域の将来を自らの課題として捉え、実社会を見つめ、持続可能な社会の実現に向けて、他者と関わりながら考えを広めたり深めたりしていく。この過程を通して、児童の地域社会に関する意識や関わろうとする意欲が向上するということが分かった。

第5 今後の課題

本研究で提示した視点により、他の単元計画や学習活動を見直すことで「持続可能な社会の担い手」を育成するカリキュラム開発を継続して行う。また他教科でも汎用させていく。